

平成元年 3月  
2巻 1号

# 日本口腔 インプラント学会誌

Journal of Japanese Society of Oral Implantology

インプラント誌

JJSOI

ISSN 0914-6695

1989

日本口腔インプラント学会

インプラント植立の良否の確認は、一般に植立後に肉眼あるいはX線像でなされることが多い。しかしながら植立状態が不満足であった場合の再植立は、特にITIインプラントの場合禁忌である。この問題を解決するための1つの考え方として、インプラント床を形成する前に植立状態を肉眼およびX線像で確認する方法と、確認できた後それと同一の状態でもインプラント床を形成する技術が必要であろう。

今回われわれが考案したリードピンシステムは、この考えにそったもので、インプラント床を形成する前に使用するインプラントに対応したリードピンなるピンを用いるのが特徴である。リードピンにて咬合状態、植立位置、方向、深さを確認した後、フライドリルをその内径に幅の合わせてあるリードピンヘッド部に被せ、リードピンの上からインプラント床を形成する。この方法によるとリードピン植立の状態とインプラント植立の状態がほぼ同一になるため、リードピンの段階で将来のインプラントの植立状態が予測できる。したがって不満足な結果が予測された場合はリードピンを抜き出し、再植立を試みることもできよう。

今回はこのリードピンを用いたITIインプラントの植立方法を紹介した。